



こんにちは。地域おこし協力隊3年目の小谷英介です。今回は私も深く関わっている、「大山賑わいプロジェクト」についてお伝えします。

大山寺地区の現状

大山町の一番の観光地といえば大山登山口に位置する、大山寺地区です。この地域の観光業は、さびしい状況になっています。

大山寺を訪れる観光客の数はここ35年間で半減し、旅館・飲食店37軒のうち7店舗は空き店舗となっています。さらに、稼働中のお店であっても週末だけの営業という店舗が多いため、平日に大山参道を訪れる観光客は、この数值以上に「本当にここは観光地なのだろうか?」という残念な印象を受けてしまします。

大山賑わいプロジェクトとは

その中で、地方創生事業のひとつとして、大山賑わいプロジェクトがあります。大山

賑わいプロジェクトとは、大山開山1300年に向けて、地域の人たちと一緒に観光地としての一貫したテーマに沿った賑わいある街並みづくり、商品づくりを行っていく

い、ということです。まずは、大山寺地区を拠点

ものです。一朝一夕に成功できるものではありませんが、今年4月、大山寺博労座を中心とする「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」が日本遺産認定されるなど、大山観光には追い風が吹いています。

観光まちづくり会社「さんどう」設立

この大山賑わいプロジェクトを推進していく母体として、大山寺地区の事業者の同意の下、観光まちづくり会社「さんどう」を設立しました。「さんどう」のメンバーは、私を含む地域おこし協力隊員4名、一般スタッフ1名の計5名です。前職はIT系企業、旅行業、広告会社など、バラエティに富んだ人材が集まっています。

私は自分がこだわっているのは、「さんどう」はアドバイザーでもコンサルタントでもなく、結果に責任を持つて最前線で動く実行部隊でありたい、ということです。

まずは、大山寺地区を拠点にして、大山で体験できるプログラムの企画や、店舗の企画運営・ツール開発などから始めています。

前向きな事業者との連携が力ギ

大山寺地区の観光活性に関わることになったことを町内や米子の人々に話すと、「大変だよ」「あそこの地域の人には難しいよ」とネガティブなことを私に言う人もいました。実際に大山寺地区に入つてみると、さまざまな思いを持つている人がいます。僕も「大山寺の人は善良な良い人ばかり」と社交辞令を言うつもりはありません。ただ、「なんとかしたい、変化を起こしたい」と前向きな行動と挑戦を始めている人は何人もいて、精力的に動いています。

そしてそういった人は一人ではありません。外から新しく、結果に責任を持つて新しい事業者を呼んでくるとともに必要ですが、まずは、すでに

事業者連携については、までは共通のコンセプトを掲げて、観光客へ発信力を高めていく。「さんどう」の仕事は、そのような連携を促す事務局として動いていくことです。

料理開発部の発足

事業者連携については、まずは観光の日玉である「食」をテーマに活動を始めています。大山に行ったら、大山おこや大山そばだけではなく、他のものも食べたい、食歩きができるものも欲しい、というお客様の声に応えるために『料理開発部』が動き始めました。参加する各事業者が、意見交換や試食会を重ねて、商品開発できる場を目指しています。

詳細は左のページで紹します。大山の雄大なロケーションとあわせて、各店舗に立ち寄っていただき新しいグルメもぜひお楽しみください。

◆問い合わせ先

大山町地方創生本部事務局
☎ 0859-53-3120

レベルを高めていく、あるいは、協力してサービスのあの場所の事業者同士が連携しあい、協力してサービスの